



## 祖父の思い出

(財) 地方公務員等ライフプラン協会 東堂 玄幸

**昨**

年12月、私の祖父は87歳で他界しました。私はおじいちゃん子で、子供の頃は祖父の隣で寝ていました。祖父は布団の中でよく満州での兵役の話をしてくれました。とはいえ内容は戦友との面白おかしい生活の話ばかりでした。祖父は終戦後ソ連の捕虜となり、シベリアに抑留されています。時折布団の中で激しくうなされることがありました。孫には話しませんでした。本当は想像を絶する苦勞をしていたのだと思います。

祖父は自動車マニアでした。子供の頃、当時は珍しかったトラックに乗せてもらって以来だそうです。近くの修理工場に入り浸っては、車いじりを眺めていたようです。昔のワーゲンビートルがお気に入り、とうとう父のサニーをビートルに買い換えさせた程です。でも本当の憧れはBMWだったらしく、私はよく購入を勧められましたが、それはさすがに無理でした。祖父は最後まで運転免許証を手放しませんでした。

加えて祖父は相当の音楽好きでした。しかも古い昭和歌謡です。ハーモニカはかなりの腕前でした。私が子供の頃、祖父はハーモニカサークルに所属しており、なぜか我が家が練習場でした。毎週土曜の夜は家の2階に集まって、「緑の地平線」や「誰か故郷を思わざる」をブースカブースカ吹きまくるのです。とてもドリフなど見てられません。

私が小学4年の時、突然祖父に頼み込まれました。「一緒にアコーディオンサークルに入ってくれ」とのこと。アコーディオンを習いたいのだが一人では寂しいので、孫の私を誘った訳です。あまり興味が沸かなかったのですが、おじいちゃん子の私は祖父の頼みを断れず、一緒に習い始めました。ついには私の弟2人、叔母と従姉妹2人まで巻き込みました。一家で「青い山脈」を合奏し、祖父は嬉しそうでした。アコーディオンは高校卒業くらいまで続けましたが、ロックにかぶれた私は「青い山脈」よりもヴァン・ヘイレンを演奏したくて、ギターを買いアコーディオンをやめてしまいました。

その他もうどんソバ打ち、日曜大工、一輪車、ヴァイオリンに至るまで、興味を持ったものは何でも取り組みました。道楽だけでなく自治会や商友会（うちは足袋屋でした）、お寺の総代など、地域活動にも積極的でした。おかげで祖父は皆に愛され、賑やかなお葬式になりました。棺には大切にしていた本「昭和歌謡曲大全」を入れてあげました。

こんな具合に、祖父は語らずとも、身をもって人生の楽しみ方を私に教えてくれたような気がします。たぶんあの世でもハーモニカを吹いているに違いありません。もしかしたらBMW買ったかも。おじいちゃん僕は元気ですよ！ いろいろありがとう！

